

区の主な特徴

市内で最初の区として誕生

保土ケ谷区は、江戸時代には宿場町として、開港後は近代水道や工業の中心地として栄えてきました。昭和2年(1927年)10月1日の区制施行で、鶴見区、神奈川区、中区、磯子区とともに誕生した保土ケ谷区。2017年に区政90周年を迎えました。

保土ケ谷区ってどんな区？

保土ケ谷区は、全市18区の中で人口や面積をはじめ様々な点で中位に位置しており、横浜の平均的な地域と言えます。また、市の中心点も星川中央公園(星川二丁目)付近となっています。

◆人口が横浜市第9位

保土ケ谷区の人口は、206,963人で、市内18区中9位となっています。1位は港北区の359,753人で、18位は西区の104,604人です。(令和3年12月1日現在)

◆老年人口比率が横浜市内第9位

保土ケ谷区の老年人口比率は26.6%で、市内18区中9位となっています。1位は栄区の31.0%で、18位は都筑区の17.9%です。(平均24.8%) (令和3年9月末現在)

◆昼夜人口比率が横浜市内第9位

保土ケ谷区の昼夜人口比率は、85.1%で、市内18区中9位となっています。1位は西区の186.0%で、18位は青葉区の76.2%です。(平成27年国勢調査)

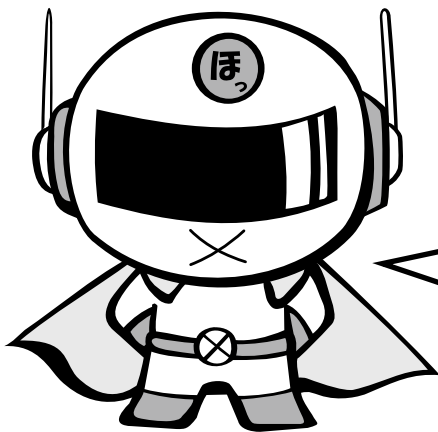
◆出生数が横浜市内第10位

保土ケ谷区の出生数は、1,231人で、市内18区中10位となっています。1位は港北区の3,122人で、18位は瀬谷区の699人です。(令和元年)

◆緑被率が横浜市内第9位

保土ケ谷区の緑被率は、29.4%で、市内18区中9位となっています。1位は緑区の40.6%で、18位は西区の11.3%です。(令和元年度)

統計便覧キャラクター



私は、保土ケ谷区統計便覧のマスコット「ほっと」です。よろしくお願ひします。

「2022年保土ケ谷区統計便覧」での私の主な任務は、9ページから11ページの紹介です。

この冊子の統計データ等から、ほどがやを知っていただき、よりいっそうほどがやを好きになってほしいです。